

TGRFキッズ記者体験レポート

記者：鈴木 あおみ(小学4年生)

2019年12月15日(日)に富士スピードウェイで行われた TOYOTA GAZOO Racing FESTIVAL に家族で遊びに行きました。お父さんや弟は車が大好きですが、私はそんなに車に詳しくないです。だから、キッズ記者体験では初めて知ることばかりでした。

☆インタビュー☆

LEXUS TEAM ZENT CERUMO の石浦 宏明選手にインタビューしました。石浦選手はカートを高校生から始めたそうです。普通は5歳くらいから始める選手が多いそうです。他の選手に比べて始めるのが遅いので相当努力したと思いました。レーサーになるにはカートのほかにお勉強もしないといけないと言っていました。その理由は、海外のレースではピットとの無線のやり取りは英語でしないといけないからです。レーサーはあまりお家に帰れないそうです。もしも私のお父さんがレーサーだったらあまり会えないのでさみしいなと思いました。石浦選手はレース車両だけではなく、普通の車の開発にも関わっているそうです。レーサーのお仕事はレースをするだけではないのだとびっくりしました。



☆ピット見学☆



LEXUS TEAM WedsSport BANDO H のピット見学をしました。私は国本 雄資選手に3つの質問をしました。

Q、レースをしていて一番楽しいときはいつか？

A、速く走れるとき。

Q、レースをしていて怖くないか？

A、全然怖くない。みんながルールを守っているから。

Q、レースの中で一番大変なことは？

A、大変なことだらけ。速く走ること。結果を出すこと。

私はレース車両の運転席に座らせてもらいました。さすがとても低くて、まるで寝ているようでした。それにハンドルが右ではなく左でした。ハンドルにいろいろなボタンがありました。普通の車とは違い、ハンドルについているパドルでギアを変えているそうです。みんながルールを守っているから速いスピードを出してレースをしていても怖くないのだという国本選手の話聞いて、レーサーはみんな一緒に走っている他のレーサーを信じているのだと思いました。

☆さいごに☆

来年はレースのことをもっと知って、TGRFをもっと楽しみたいと思います！ありがとうございました。